

## 生産技術開発部の抱負

北沢 一幸

Kazuyuki Kitazawa

21世紀に向け地球環境問題と産業発展の両立が提起されている現在、これに対応した新製品の開発が必要となります。つまり、市場ニーズを先読みし、潜在的なニーズを喚起する能動形業務形態による「価値創造型製品」の積極的な開発です。

このような時代背景を受け、今後の生産技術部門は、従来の生産ラインの導入や維持管理などの受動形業務形態に加え、能動形の業務形態を積極的に推進していく必要があります。この能動形業務を進めるため、本年4月に、当部門「生産技術開発部」が発足しました。当社では新製品開発に関する基本方針として、

- 1.開発期間の短縮
- 2.開発テーマの活発化
- 3.生産技術部門の積極的参画

の3点を挙げておりますが、この基本方針のもとに、「価値創造型の製品作り」を行うなかで、「生産技術開発部」は、人と地球に優しい新製品を生み出すための生産システムの実現をめざし、能動形業務をより積極的に推進できる組織、部門でありたいと考えます。

また、次世代が求めるニーズを予測し、その核となる新しい生産技術や要素技術を設計開発部門に提供し、関連部門と連携して、新しい製品をより効率良く短期間で開発していくことを主眼におきたいと考えます。

その実現に向け、部員それぞれの専門知識のスキルアップをはかり、その集結をもって組織としての力としたいと考えております。さらに、効率の良い人材活用を行い、要求事項に敏速に対応できる体制作りを図ります。

「生産技術開発部」においては、8月のテクノロジーセンター竣工に伴い、人員の集結を行い、また、機械室には既存設備の統合に加え、新規に最新鋭の加工設備や測定器を充当しました。これらの設備を有効活用し、設計品質を満たすと共に、高い顧客満足度が得られ、そして、生産性の高い「価値創造型の製品作り」を短期間で実現して行きたいと考えております。

また、「創造性のある製品作り」に伴う工業所有権の取得についても、その重要性を認識し、新技術ばかりでなく、製造方法や意匠などにも積極的に取り組みます。

これらの取り組みに参画して成果を得ることによって、完成の喜びと開発製品の社会的貢献度を知ることは、個人の自己実現を図ることにもつながります。さらに、自部門で生み出された新工法や設備によって作られた新製品が、市場に受け入れられる製品に育つことは、「生産技術開発部」の一層の飛躍につながるものと信じます。

---

北沢 一幸

1972年入社

生産技術開発部

ファンモータ生産技術を経て、全社生産技術および新製品開発に従事。

---